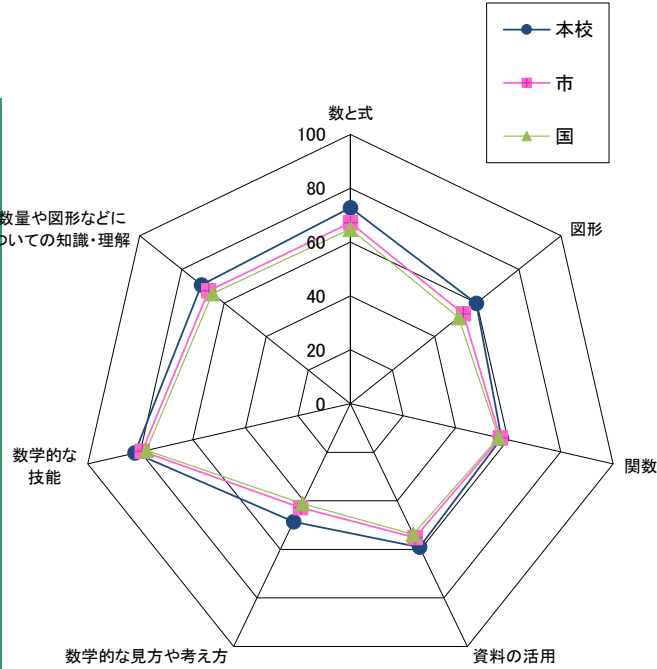


宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 72.8 | 67.2 | 64.9 |
|    | 図形                | 59.8 | 53.6 | 51.4 |
|    | 関数                | 57.5 | 57.0 | 56.4 |
|    | 資料の活用             | 59.1 | 55.1 | 53.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        | 48.6 | 42.8 | 41.1 |
|    | 数学的な技能            | 82.1 | 79.3 | 77.7 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 70.8 | 67.4 | 65.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                                   |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | ○領域の正答率は72.8ポイントで、全国平均を7.9ポイント上回っている。整式の加法・減法の計算については、正答率が86.3ポイント、無解答率は0ポイントだった。数学的な技能に関する問題の正答率は、全国平均よりも高い。<br>●数の規則性を説明する問題では、正答率は39.2ポイントであり、全国平均を9.2ポイント上回っているものの、正答率が低い。また、無解答も多い。 | ・四則計算や文字を扱う計算についての数学的な技能は、本市の中でも比較的高いといえる。基本的な計算技能の習得のために、反復練習を継続して行う。また、必要に応じて小テスト等を行い、より確実な技能の習得を目指す。                                    |
| 図形    | ○領域の正答率は全国平均を8.4ポイント上回っている。知識・理解に関する問題で、おうぎ形の弧の長さを問われる問題や、2直線の位置関係を問う問題では、いずれも正答率が高い。<br>●図形の性質を見だし、それを数学的に表現する問題では、全国平均を7.0ポイント上回っているものの、正答率は35.8ポイントと低い。また、無解答も多い。                     | ・図形の性質を説明する際に、根拠をもって述べること、順序だてて文章を構成することが苦手な生徒が多い。理解が不十分な生徒には穴埋め形式にする等、段階を追って習熟度に応じたきめ細かな指導をする。                                            |
| 関数    | ○領域の正答率は全国平均とほぼ同等である。無解答率は、すべての問題で全国平均よりも低い。<br>●「関数」という言葉を用いて時間と長さの関係を表現する問題では、正答率は47.1ポイントで全国平均を0.9ポイント下回っている。                                                                         | ・日常生活に関わる具体的な事象についての問題解決に、数学を利用することで、教科の有用性を感じさせるようにする。各学年の関数の単元の授業で、計算することを目的とせず、問題解決にどう生かされているかを考えさせることを意識して指導する。また、他教科との関係性も感じさせるようにする。 |
| 資料の活用 | ○領域の正答率は全国平均を5.3ポイント上回っている。ヒストグラムから度数を求める問題では、正答率が91.3ポイント、中央値を求める問題では正答率が84.6ポイントと高い。<br>●ヒストグラムからデータの特徴を捉え説明する問題では、相対度数についての記述を誤答となった生徒の割合が多い。                                         | ・知識の習得に留まらず、活用に至るために、身近なデータを実際に収集し、分析するような活動を実践する。また、説明に言葉が足らず、うまく表現できないことも課題である。日々の授業の中で、自身の答えを述べる際にも、根拠を明らかにし話すことを継続して指導する。              |